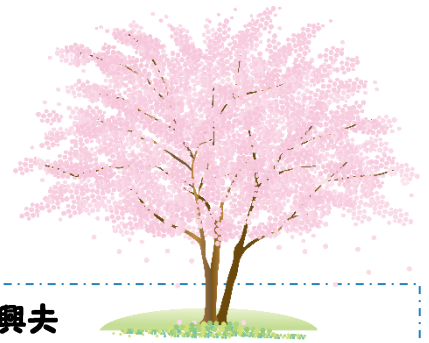


# 「桜の樹」 ニュースレター 創刊号

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 2021.4



## 『真の国際人』～「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物～ 樋野興夫

内村鑑三（1861-1930）の『代表的日本人』（1894年）、新渡戸稲造（1862-1933）の『武士道』（1900年）、岡倉天心（1863-1913）の『茶の本』（1906年）はともに英語で書かれ、日本の文化・思想を西欧社会に紹介したものである。英語で、日本（人）を深く、広く、丁寧に 海外で紹介出来た人物は、この 3人 ではなかろうか！ この3人は、「英語力 と 教養」を備えた 明治以降の日本が誇れる人物である。明治時代の3人の 「格調高い英語力」と「深い教養」と「高い見識」には驚くばかりである。100年後の現代に生きる我々は、「真の国際人の定義」を再考すべき時であろう。『真の国際人』とは、「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物であり、明治維新以降、「内村鑑三・新渡戸稲造・岡倉天心」は、『真の国際人』のモデルであろう！

### 『真の国際人』の3か条

理念： 「世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見ていく」

使命： 『俯瞰的に「人間」を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材の育成』

社会貢献：『複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き』

『真に勇敢なる人は常に沈着である。—— 吾人はこれを「余裕」と呼ぶ。

それは屈託せず、混雑せず、さらに多くをいれる余地ある心である』（新渡戸稲造『武士道』より）。



樋野先生が20年前、熟読された岡倉天心（覚三）著『茶の本』 岩波文庫

「個人を考えるために全体を考えることを忘れてはならない」

「おのれを虚にして他を自由に入らすことのできる人は、すべての立場を自由に行動することができるようになるであろう」の文章に赤線が引いてあったそうです。

有志が「茶の本」をそれぞれで読み始めています。皆様もよろしかったら・・・ぜひ

## 私が桜カフェに伺ったのは去年(2020年)の1月でした 弥生

2019年の12月にしこりに気づき、1月はまだ検査中で、どのくらいの状態かもわからず、体にいいものしか食べてはいけなかった強迫観念に陥り、食べる量も減り、全体的に弱っていました。そんな中で、桜カフェで経験者の方達の明るい様子に触れたことが本当に助けになりました。詳しい内容や、同じ乳がんでも一人一人状態は異なることなど、具体的なお話を聞けたこともありがたかったです。主催者の山本さんの柔らかい人柄、力が入っていない雰囲気、久しぶりに少し力を抜くことができた一日でした。

また明るい気持ちになれる日が来る、乗り切ろう、と思えるにはその後もまだ時間はかかりましたが、あの日カフェに伺ったことは間違いなく影響しています。

2020年3月に手術し、その後コロナで緊急事態宣言があり、化学療法の開始は数カ月先からになりました。コロナ禍での治療は感染の不安があり、化学療法中は仕事は休みをもらいほぼ自宅にいる日々。コロナ禍でも良かったと思えたことがあります。籠っているのは自分だけではない、日本中でみんなが耐えている、がんばっている、と治療中の孤独を感じずに済んだことです。

現在、仕事に復帰してから5ヶ月が経ち、乳がんが判明してからは1年が過ぎました。復帰できた時の、当たり前のことがなんでもできる喜び(コロナ禍で制限はありましたが)、元の生活に帰ってこられた感謝も、喉元過ぎればですっかり日常に戻ってしまっています。でもそれでいい。感謝は忘れてはませんが、心は日常に戻る、それが一番だなと思います。

9月まで化学療法が続きます。コロナの感染対策をしっかりとしながら、気を抜かずに進んでいきます。

治療中の方、治療を待っている方、不安を感じている方、みなさまにも平穏を感じる気持ちが戻ってこられる日が来ることを願っています。

## 私の近況・・・今の気持ち Y.K.

コロナ禍で、『おうち時間』が多くなっている今、昨年の秋に三回忌が終わった義母の部屋の片付けを始めています。それまでなかなかする気になれなかったのですが、ご住職の「三回忌が終われば一区切り」という言葉で、そういう気持ちになりました。元気な頃デイサービスで行っていた作品から、家計簿や季節のご挨拶のものの住所録、手紙まで、ほんとうに色々なものが出てきて、義母は「きちんとしている人だったな」って改めて思います。それと同時に、亡くなる前数年は認知症がひどくなり、自宅で看ていた私は気持ちに余裕がなくなり、「義母の気持ちに全く寄り添えてなかったな」って、やりきれない気持ちにもなります。ですが、部屋が綺麗になっていくことで、義母も喜んでくれているはず、私たち家族がこの家を大事にし、楽しく暮らしていくことが供養になるって思い、気持ちを新たにしています。

気持ちを聞いてもらえたり、相手の方の話を伺ったり、いつも心が和む、そんなカフェに仕事の関係でずっと参加できませんが、巣鴨カフェ「桜」のホームページは常に見させてもらって、力をもらっています。ニュースレターという形で参加させてもらえることに、感謝です。

さくらさんから教えていただいた「茶の本」何軒か本屋さんを見ましたが、どこにもなく、これからネットで注文してみようと思います！いつまでも昔の方法ではダメですね！！

なかなか手に入らないとなると、すぐにでも読みたいって思ってしまうですね！また読んだ際には、感想など書かせていただきます！

## いま、できること まぐ

『いま、できることをやりなさい』4年ほど前に、私が目白がん哲学外来カフェで、かけてもらった言葉です。その時、私は定期検査でがん再発の疑いが見つかり、心がとても苦しい状態でした。『再発の疑い』...この事実を受け入れることができなかつたのです。辛い心のうちをカフェで出会った方々に聴いてもらったのでした。

今振り返ってみると、あの時、長々と続く私の泣き言を黙って聴いて下さったカフェの方々には感謝でしかありません。そして、最後に『今できることをやりなさい』と優しく言葉をかけてもらい、心がすうっと軽くなったのでした。『解決はしなくても解消はできる』を実感した瞬間でした。

今はコロナ禍の中で、カフェで出会った方々とも会うことが難しい状況が続く閉塞感を感じながら日々を過ごしています。闘病中とは違う状況ではありますが... 結局は、今も自分ができることをやりながら、コロナの収束を願っています。カフェで出会った方々とも、また必ず笑顔で語り合える日が来ることを信じています。

## 編集後記 さくら

コロナ禍、巣鴨カフェ「桜」は、人数を制限しながら開催しています。昨年緊急事態宣言下、皆様とのつながりを保ち続けるために、何かできることを模索し、ホームページを立ち上げました。しかし、なかなか双方向でのやり取りは難しいのが現状です。以前カフェにいらして下さった方から個別にご連絡を受ける中、現在もカフェに参加されている方もそうでない方も、互いの近況を気にかけて下さっていることがわかりました。また、それぞれがその置かれた状況で、「今日、いまを一生懸命に」過ごされておられる様子をうかがい、私自身とても力を頂き勇気づけられてきました。そこで、ご自身の近況などをそれぞれが語っていただける場として、このニュースレターをはじめることになりました。巣鴨のカフェは「桜の樹のような場所」を目指しています。ニュースレターも「桜の樹」としました。今回協力して下さった皆様に感謝申し上げます。そして、今読んで下さった皆様も、ぜひ原稿お寄せ頂ければ幸いです。この場所で力を分け合っていけたらと思っております。



編集：岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 山本 ひろみ

TEL 090-8501-0826 [gantetu\\_sakura@yahoo.co.jp](mailto:gantetu_sakura@yahoo.co.jp)

<https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来